

平成 27 年度第 1 回浦安市児童センター運営懇談会会議録

- 会議資料 別紙参照
- 開催日時 平成 27 年 6 月 4 日（木）午後 6 時 30 分～8 時 00 分
- 開催場所 総合福祉センター 2 階 多目的室
- 出席者 10 名 委員名
 - （委員） 江黒委員（浦安市小中学校校長会）
 - 中島委員（民間有識者 NPO 法人 i-ネット）
 - 牟田委員（民間有識者 浦安子ども劇場）
 - 本田委員・岡田委員（民生委員・児童委員協議会）
 - 橋本委員（青少年相談員連絡協議会）
 - 奥村委員・松良委員（子ども会育成連絡協議会）
 - 熊川委員（こども部保育幼稚園課長）
 - 高柳委員（こども部青少年課長）
 - （事務局）（こども部児童センター）
 - 東野児童センター：河野所長・小池・竹森・小野寺・小林・中里
 - 高洲児童センター：吉田所長・山口・飯沼
- 開会
- 自己紹介
- 東野児童センター所長挨拶
- 会長挨拶（江黒会長）
- 議 事
 1. 平成 26 年度事業報告について
 2. 平成 27 年度事業計画案について
 3. その他
 - ◎議事進行（江黒会長）
 - 議事 1・2 について 児童センターごとに事業内容を報告
 - 議事 1・2 についての質疑応答・意見・感想
 - 議事 3. その他
 - 議事 3. その他についての質疑応答・意見・感想

◎議事1・2についての質疑応答

委員：高洲児童センターに、一人で来館するこどもは多いのか？

事務局：習い事が多く、友達と時間が合わないと一人で来て一人で遊ぶ。土日は友達と来るが、平日は児童センターで待合わせをしている子もいる。

委員：センターの中で仲間がいない子が増えていて遊べない子がいるのか、高洲だから多いのか、最近増えてきているのか、東野は少ないのか。

委員：今のこども達がどのような過ごし方をするのか、仲間を作ることが難しくなっているのか、変化があって一人が増えてきているのか。

事務局：一人が多いという感覚は持っていない。友達同士で来る子どもも多く、特に問題視はしていない。

事務局：高洲児童センターも多いわけではない。

委員：一人で来る子も楽しめるように配慮をしているか

事務局：東野児童センターでは一人で来る子は、職員が関わって遊ぶこともある。一人で来ても児童センターに知っている子がいれば一緒に遊ぶ。

委員：私たちが運営している「集いの広場」で小学生がボランティアとして参加し交流したが、気になる行動があり注意してもやめない子がいた。男児の受け入れは年齢を決めた方がいいのではないか。

事務局：東野児童センターの「赤ちゃんサロン」に、男の子が夏休みに来ることがあるが、視聴覚室の舞台に授乳スペースを設け、男の子が入らないように工夫している。部屋に入る前に手を洗う、爪は伸びていないか、赤ちゃんはそっと抱くなど基本的なレクチャーをする。

また、おむつ替えの場所を指定して皆が集まる場所ではしないように配慮している。

委員：私たちも同じような配慮をしているが、指定した場所に6年生の男の子が行ってしまい、スタッフもずっとその男の子に付きっきりでいた。

会長：やはり個別の対応はしていただきたい。

委員：高洲児童センターは、5周年記念で風の子の人形劇を実施される。こどもたちが生の舞台を体験するのは良いことだ。学校やPTAでは経費節減できなくなり、児童センターでやっていただけるとありがたい。私たちマリンバコンサートに0～2歳のこどもにも来てもらったが、静かに聞いてくれたようで音楽に年齢は関係ないと思う。

議事3. その他

東野児童センター

- ・クリスマスカード制作・鉄棒教室・少子化対策・ボランティア・シューズプロジェクト

高洲児童センター

- ・シューズプロジェクト・盗難について・赤ちゃん交流

◎議事3. その他についての質疑応答

委員：懇談会全体についてだが、「3.その他」で報告した事業をメインの事業として資料に載せて報告した方がよいのではないか。

事務局：次回からは大きな事業は資料に載せ報告する。

委員：今回は、事業の報告以外にこどもたちが毎日どのように過ごしているか様子をお伺いしたい。

委員：多くの事業が展開され、こどもは学校以外で様々な経験ができるのは良いと感じた。そこに参加しているこどものイメージはできるが、居場所としての児童センターで今のこどもの課題や様子を伺いたい。

昨年度の懇談会で、気になる特定の子がいること、虐待の話、いじめの話が出ていた。学校とは違うこの場所で今のこどもたちをセンターの職員がどのようにとらえているか伺いたい。

事務局：学校側は保護者と連絡が取りやすいが、児童センターの職員が家庭に入り込めるかどうか。保護者のほうから連絡が来れば対応できるが、児童センター側から問題のあるこどもの保護者に直接電話をしてもいいかどうか。児童センターだけではわからない情報もあると思う。学校側は忙しくて電話ができないというもど

かしさを感じる。学校との連携が大事。

委員：全体としての方向性を伺いたい。

事務局：ある高校生について、青少年課の相談員の先生にどのように関わるべきかを相談したところ、まず、そのこどもに関しての情報を集め時系列に並べて分析することにした。夏休みは一番危険な時間であり、それまでには何とかしていきたい。

委員：その子と職員はコンタクトがとれるのか

事務局：話しはできるが、ルールを守らないので注意をすると素直には受けない。居場所がないのだと思う。また次回報告できればと思う。

委員：27年度の事業計画の詳細や日程はどこで見られるのか。
年間を通しての事業を事前に父兄にアナウンスすれば、問題のあるこどもについても、親同志のコミュニティがあるので改善点が見つかるのではないか。

事務局：毎月のお知らせを配布しており、ホームページや広報でも見られる。
年間計画表を作成しており、変更することはあるが差し上げられる。

委員：夏休みに向けて様々な行事を準備しているが、事業に当選したこどもがキャンセルした場合はどんな方法をとっているか、落選した子に連絡はいくのか。

事務局：当選のはがきに、キャンセルの場合は早めに連絡をするようお願いしており、キャンセルになれば、待ちの人に連絡をする。講師とも相談をしてキャンセルを見込んで当選者数を調整することもある。

閉会